

令和5年度 第1回長野市林業振興審議会 議事録 概要

日 時：令和6年2月13日（火）午後2時から午後3時まで

場 所：長野市職員会館2階 大会議室

出席者：委員14名、事務局6名 計20名

次 第：1 開会

2 挨拶

3 議事

(1) 長野市森林経営管理計画の取組状況について

(2) 森林環境譲与税事業について

(3) その他

4 閉会

議事（概要）

議題1 長野市森林経営管理計画の取組状況について

資料1-1、1-2に基づき事務局から説明

議題2 森林環境譲与税事業について

資料2に基づき事務局から説明

委員

資料1-2について主伐して天然林更新をしているが、弊社も薪炭林を切ってぼう芽更新、天然林更新をしたりしているが、この表には天然林の面積は含まれているか

事務局

天然林更新は、含まれていない。

委員

造林が主伐の20%ですが、森林だけ扱ってれば更新面積の目安の面積になるんですが、事情が色々あるとのこと。

委員

資料の1-1で、2点ほどお願いします。まず括弧の4番の説明で、令和4・5年度、小物を制作しているとのことだが、結局予算が変わらず単価が高くなり、使用量が減ったという理解でよろしいか。

それから2点目、同じ資料1-1の上の括弧の2番ですが、計画作成当時は議論なかった

と思うが、新規雇用者の増えてくるのはとても好ましいことですが、逆に離職や、退職する方のバランスはどうか。その2点です。

事務局

1点目ですが、御見込みのとおり、小物で手の掛かる木製品で単価が高くなり、木材の使用量は減っています。

2点目の林業従事者の確保・育成ですが、過去の新規雇用者と離職者の割合が均等であったため全体の人数に変化はありません。

また、昨今は、新規就業者が僅かに増加しています。

委員

この計画自体も今後見直しのタイミングが近く近いかと思しますので、資料1-1(4)木材利用の普及・市産材普及事業等の木材について2.5 m³という数字は、木材量は多くないことと、木製品を制作する上で、予算的のもこの位の量なのかと思いました。

また、木材の量的な目標をどうするか、もしくは予算的な裏付けをどう変化していくのか今後、注視していきたい。

もう一点、(2)林業技術者の確保・育成と先端技術の導入・フォレストワーカー育成事業等につきましてもやっぱりどの業界も、担い手不足は特に深刻であり、ニュース等で承知をしておるところですけれども、林業のこれから進んでいく上で、ぜひそういった担い手の確保といった面で分析をされて、新規の就労者の皆さんもそうですけれども、維持していく、もしくはもっと伸ばすっていうふうなところでまた戦略を練っていただきたい。

議長

資料1-1(3)森林とのふれあい促進・林業体験事業ですけど、達成率が100パーセント超えるという好成績ですけれども、達成目標があって何%達成は、日本全国的に流行である。我々もKPIとか、それを達成しないと予算削られるという、とんでもない状況であるが、重要なことはその中身がどうなのかという事が大事だと思うのです。数字もさることながら、極端に低い場合は問題ありますけども、進めていく中で達成率については、何がどうあってどう効果があったかが大事である。

これは、次の議題にも関わることで、税金の用途が達成率ではなくて、市民からすると効果がどれだけあったか、林業をどれだけ、先ほどの、人員にしても、どれぐらいやはりそういう技術が増えたのかなど、そういうことが特に地域の方々の心理に対する意識みたいなのが(3)のプロジェクトで変わったのかが問われる。

例えば(3)について言うと、例えば2200人の内訳など。年齢構成も、分かる範囲で簡単に教えて欲しい。

事務局

市民の体験ですが、大きく分けて、市が開催するイベントに参加してくれる方と、あともう1点は緑の少年団ですね、市内に活動団体があります。

森林林業以外にも、例えば花を育てたり、そういった活動をしています。

また、この森林林業に、携わって活動したところをカウントしていますが、最近のちょっと傾向というか、以前はみどりの少年団っていうと、割と学校内の花壇の整備とか、結構多かったのですが、こここのところこの森林や林業に対する、そういった活動が増えてきているっていうのが1つのポイントと、あと森林体験の方も今、キャンプブームとかそういった中で、ブッシュクラフト体験とか、生木からスプーンなどを作るグリーンウッドワークとか、ちょっと今までの下刈りとか、市民の定義もそうなんですけど、そうでない触れ合いをしたものという整理もそういった意見も始めてきて、そういった中でこの体験の中身としては多様化しているところであります。

例えば、緑の少年学校の先生等も、去年と学校の先生の意向というか、教える必要がありますので、そういったのをシニアリーダーに対して、増加していることは、我々としてよい傾向であると思われる。

議長

5カ年の計画期間が終了し、総括ということになるとそこが非常に大事になってくるかと。次の計画の改定時にどういう戦略戦術でいくのかということにそれが大事である。

事務局

会長、副会長の方からご意見頂きまして誠にありがとうございます。

担当補佐から、説明申し上げましたけれども、今までの森林ふれあい体験等、小学生が中心である。また、ブッシュクラフトっていうのは、好きな方が参加するという方が多いので、一般の市民の方になかなか浸透してなかったっていうのが事実である。会長のお話のとおり、中身っていうのは重要だと思いますが、また来年度におきましては、もう少し一般の方でも参加できるようなイベント形式的なものを開いていきたいと思っている。

それともう少し高年齢層を見たときに、空白の年齢層があります。

例えば小学生以下の小さなお子様です。そういった方を対象に保育園や幼稚園におもちゃを配って、昨日ぬくもりを感じてもらおうということも、来年度からやっていきたいと考えている。

また課長の方からお話ございました林業従事者の確保でございますけれども、新規就業者が増えている状況ですが、どこの業界も人が不足し、取り合いになってる。我々も林業大学を出られる方を市内の林業事業体へのインターンシップにより、少し手助けをしていくとか、あと、高校生に対して、林業大学という選択肢もあるということ、PRしたいと考えている。新規就業者を増やすような努力をしていきたい。

議長

資料1-2の(1)(2)パーセントの表記の仕方ですが、差分表記が良いと思います。

委員

説明のありました資料2(2)技術者の確保育成、先端技術の導入について事業費は大きい、具体的に説明願いたい。

また、同じ項目で令和5年度以前については、先端技術の導入は実施していたか。もう一点、(4)の説明でサイクルスタンドの説明をお願いしたい。

事務局

技術者の確保・育成について、新規就労者一人につき、雇用年度に10万円準備支援補助金として個人に支払い、認定林業事業体に対しては、翌年度に就労者の経費に対して雇用安定補助金として経費の8割補助で上限200万円を3年に渡り事業所に支払いをするものです。

先端技術の導入については、令和5年度新規事業により、ドローンを活用した山林の樹種や材積などを調査し、森林整備を進めます。

また、サイクルスタンドについては施設駐車場に設置する自転車立てです。

委員

松くい虫の対策ということで、当初予算が計上していなくても、年度途中で譲与税を活用して、処理していくという事は理解できる。体験事業などにも積極的に譲与税を活用し、進めてほしい。

事務局

新年度は、譲与税を活用し一般市民を対象に森林フェアの開催を計画しています。そういった中で市民の方にも森林にふれあうイベントが浸透していけばよいと考えている。

委員

市内における松くい虫被害の実態の説明をお願いします。

事務局

最初の松くい虫の被害が増大した時期はオリンピックの頃でして、1万9千㎡でした。その頃から駆除を実態に見合った燻蒸処理等をしまして、3千から2千㎡の被害量が続きまして、平成29年に気候が高温の年がありまして被害が拡大した。

令和5年度については、譲与税事業の他、既存の事業で対応している状況である。

議長

松くい虫防除については、いろいろ策を講じているが、なかなか減らない。

健全な松については、売れるものは切って売る。そういったシフトに変えていくなど考え方を変えていく時期ではないか。地元の方や報道などに説明をしながら対策をしてはどうか。

また、再造林について、かなり意識が低下している。人工林から天然林に戻していくことが必要である。再造林できない理由などの情報収集をお願いしたい。それに対して今後どうしていくか検討していくべきである。